

3 「環境を守り・伝える心と活動を育むまち」

<取り組みの3つの柱>

取り組みの柱1：環境教育・環境学習の推進

取り組みの柱2：環境情報の充実

取り組みの柱3：市民・事業者等の環境保全活動の促進

取り組みの柱1：環境教育・環境学習の推進

<現状と課題>

本市では、旧計画に基づき、「東広島市生涯大学システム」や「東広島市生涯学習まちづくり出前講座」、「マイタウンティーチャーの派遣」等を活用し、学校教育の場や市民等に対する環境教育・環境学習を推進してきました。

平成22年度の出前講座では、「川の水をきれいにするために」（2件）、「ごみ問題について」（12件）、「おいしい水ができるまで」（15件）、「地球温暖化対策について考えよう」（1件）を開催し、1,642人の市民が参加しました。平成23年度においても、「知って得する家庭の省エネ」、「緑のカーテンと省エネ」、「ミミズコンポストで快適生活！」など、新たな講座を開設し、継続した取り組みを推進しています。

また、「ひがしひろしま生涯学習ボランティア人材バンク」を設置し、環境等に関する指導者の登録・育成にも努めていますが、十分な成果はあがりません。

一方、環境保全団体等において、地球温暖化防止やごみの減量化等に関する環境学習が積極的に行われており、市民相互の環境教育・環境学習の取り組みの広がりが期待されています。

市民アンケートや事業者アンケートでは、77%の市民、事業者が「環境教育・環境学習の充実」が重要と考えています。

その一方で、「家庭内で環境問題について話し合いを行っている」と回答した市民の割合は29%、「環境に関する従業員教育」を行っていると回答した事業者の割合は33%でした。

東広島市の良好な環境を保全し後世に伝えていくためには、市民一人ひとりが環境との関わりについて学び、理解し、行動に結びつけていくことが大切です。そのためにも、学校、地域、家庭、職場などのあらゆる場面において、環境教育や環境学習が活発に展開され、環境を守り・伝える心と活動を育んでいくことが求められます。



東広島市生涯学習まちづくり
出前講座



ひがしひろしま環境家族の
環境学習



緑のカーテン



ひがしひろしま環境フェア2011
の様子

<取り組みの体系>

環境教育・環境学習の推進にあたり、次の取り組みを展開します。



<各主体の取り組み>

(1) 学校・家庭・地域などでの環境教育・環境学習の推進

①市・市民・事業者が協働で進める取り組みの方向性

- あらゆる世代の環境教育・環境学習の推進
学校や家庭、事業所、地域における環境教育・環境学習を推進し、環境に配慮したライフスタイルや事業活動があたりまえのこととして実践される社会の形成を目指します。
- 環境教育・環境学習に関わる人材の育成
環境教育・環境学習を支え、地域の環境保全活動のリーダーとなる人材の育成を目指します。

②各主体共通の目標

項目	現況	目標
環境に関する講師を招いて実施した環境学習の授業時間数	183 時間 (平成 22 年度)	246 時間 (平成 33 年度)
環境に関する出前講座の実施回数	30 回 (平成 22 年度)	50 回 (平成 33 年度)
市民アンケートにおいて「家庭内で環境問題について話し合いを行っている」と回答した市民の割合	29% (平成 22 年度)	60% (平成 33 年度)
事業者アンケートにおいて「環境に関する従業員教育」を行っている」と回答した事業者の割合	33% (平成 22 年度)	60% (平成 33 年度)

③各主体の主な取り組み

■市の取り組み

- ・ 市の職員や地域の専門家など多様な人材を利用して、総合的な学習の時間、社会科、理科、家庭科等の各教科において、環境教育・環境学習を推進します。
- ・ 事業者や環境保全団体等と連携し、遠足や修学旅行等の校外学習を活用して、体験型環境教育（自然観察、施設見学等）を行います。
- ・ 学校版 ISO 事業や環境学習モデル学校の指定等について検討します。
- ・ 人材バンクのうち環境に関するものや講習会等を活用し、環境教育・環境学習を推進します。
- ・ 大学や「エコネットひがしひろしま」等の環境保全団体と連携して、実践的な環境教育プログラムを作成・提供し、地域や事業所等での取り組みを支援します。
- ・ 小学校や中学校と連携して、保護者と児童・生徒が家庭において実践できるプログラムの提供などを行います。
- ・ 単に知識として知っているだけでなく、実際に行動する人材を育てるため、「日常生活と環境問題の関わりについての体験的・問題解決型」の学習プログラムの提供に努めます。

- ・ 地域センター活動等を活用した環境教育・環境学習の体制づくり（講師の派遣、学習プログラムの提供等）を支援します。
- ・ 市民、環境保全活動団体、事業者、学校、地域等とパートナーシップを構築し、人材の掘り起こし、育成、確保に努めます。

■市民の取り組み

- ・ 家庭において環境問題について話し合い、家族で考えるように努めます。
- ・ 学校や地域での環境教育・環境学習の機会を積極的に活用し、環境に関する知識を学びます。
- ・ 自然観察会や市民参加型環境調査等に参加・協力します。
- ・ 地域センター活動やグループでの環境学習に積極的に取り組みます。
- ・ 地域における環境教育・環境学習の指導者を目指します。

■事業者の取り組み

- ・ 環境関連の講習会等を積極的に活用し、社内における環境教育に取り組みます。
- ・ 事業者のノウハウや技術を活かして、環境教育・環境学習の場や機会、人材派遣、技術的支援等に努めます。

取り組みの柱2：環境情報の充実

<現状と課題>

本市では、旧計画に引き続き、「市民活動情報サイト内の環境 eco のページ」や「広報東広島」、「東広島市の環境（環境白書）」等を通じて、様々な環境情報の発信を行っています。

特に、「広報東広島」は市民アンケートにおいて、73%の市民が「市の環境に関する情報収集方法」として活用していると回答しており、市民に対する環境情報源として重要な役割を果たしています。

また、事業者アンケートでは「環境報告書やインターネットによる自社の取り組みの公表」を行っているという回答した事業者の割合は17%でした。

その一方で、市民アンケートや事業者アンケートでは、70%の市民、事業者が「環境情報の充実・提供」が重要と考えています。

今後も、あらゆる主体が手軽に環境に関する情報を収集・共有できる仕組みや、わかりやすく提供・発信できる仕組みづくりなど、環境情報の共有・発信に対する取り組みの充実が求められます。

市民活動情報サイト内の環境 eco のページ



東広島市の環境（環境白書）



<取り組みの体系>

環境情報の充実にあたり、次の取り組みを展開します。



<各主体の取り組み>

(1) 利用しやすい環境情報の整備と発信

①市・市民・事業者が協働で進める取り組みの方向性

- 環境情報の収集・共有
東広島市の環境に関する情報はもとより、国内外の環境情報など、環境保全活動等の参考となる各種環境情報を収集し、子供から大人まで誰もが情報を共有できるような社会を目指します。
- 環境情報の発信・交流
一方通行の情報提供ではなく、互いに情報を発信し、自由にやりとりができる、双方向型の環境情報社会を目指します。

②各主体共通の目標

項目	現況	目標
市民活動情報サイト（環境 eco）の登録団体数	22 団体 （平成 22 年度）	47 団体 （平成 33 年度）
事業者アンケートにおいて「環境報告書やインターネットによる自社の取り組みの公表」を行っている」と回答した事業者の割合	17% （平成 22 年度）	50% （平成 33 年度）

③各主体の主な取り組み

■市の取り組み

- ・ 広島県や大学、「エコネットひがしひろしま」等の環境保全団体、市民、事業者等と連携し、最新の環境情報の継続的な収集・共有を図ります。
- ・ 優れた環境保全活動に関する事例を市のホームページ等を通じて紹介します。
- ・ 一方向の情報提供ではなく、市民や環境保全団体、事業者等が、互いに情報交換できる「双方向型の情報提供システム」の整備（「市民活動情報サイト（環境 eco）」の拡充等）を図ります。
- ・ 市や市民、環境保全団体、事業者等の環境に関する取り組みを公表し交流する機会（環境活動報告・交流会等）の提供に努めます。

■市民の取り組み

- ・ 市や環境保全団体、事業者等のホームページなどを活用して、環境情報の収集・共有に努めます。
- ・ 自らの活動の情報を積極的に公表・発信します。

■事業者の取り組み

- ・ 市や環境保全団体、事業者等のホームページなどを活用して、環境情報の収集・共有に努めます。
- ・ 自らの環境活動を環境報告書として、ホームページ等で公表します。
- ・ 製品やサービスに関する環境情報等を積極的に提供します。

取り組みの柱3：市民・事業者等の環境保全活動の促進

<現状と課題>

本市では、市民や事業者、環境保全団体等により、自然環境保全、ごみの減量化・リサイクル活動、環境美化活動、地球温暖化防止活動などの様々な環境保全活動が展開されています。

しかしながら、市民団体や事業者等を対象にしたヒアリングや地区ワークショップでは、環境保全活動を行う上で、参加者の固定化や参加人数の伸び悩み、スタッフの不足、他の団体との連携の充実等が課題としてあげられました。

市民アンケートでは、身の回りの環境を守り、育てるために必要なこととして「地域の環境保全活動に参加する」と答えた市民は、全体の48%であり、実際に「清掃活動などの地域の環境保全活動に参加している」と答えた市民は全体の59%でした。一方、「市や団体等が主催する環境保全のイベントや活動に参加している」と答えたのは24%であり、地域に関わりが深い活動への参加意欲が高いものと考えられます。

事業者アンケートでは、28%の事業者が「環境マネジメントシステムを導入している」と回答していますが、旧計画で重要な取り組みとして位置づけられていた「環境マネジメントシステムの普及」については、十分な成果があげられませんでした。

市民アンケートや事業者アンケートでは、73%の市民、68%の事業者が「環境に配慮した企業活動や市民活動への支援」が重要と考えています。今後は、より多くの市民や事業者等の環境保全活動への参加促進や活動規模の拡大等を図ることが求められます。



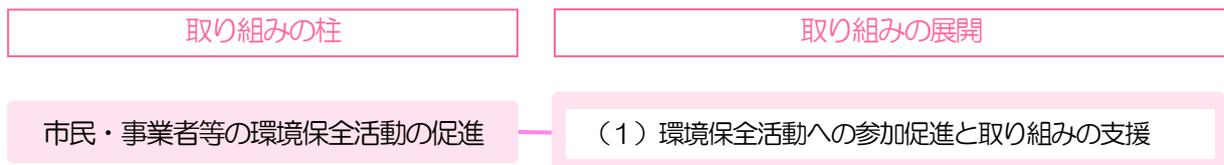
脱温暖化啓発展示
(エコINNくろせ)



野鳥・山野草観察会
(黒瀬川e-co隊)

<取り組みの体系>

市民・事業者等の環境保全活動の促進にあたり、次の取り組みを展開します。



<各主体の取り組み>

- (1) 環境保全活動への参加促進と取り組みの支援

①市・市民・事業者が協働で進める取り組みの方向性

○環境保全活動への参加促進の仕組みづくり

気軽に楽しく、継続的に環境保全活動に参加できるような仕組みやプログラムの充実を目指します。

○環境保全活動への支援

環境保全活動の立ち上げや、既存の活動への支援の充実を目指します。

②各主体共通の目標

項目	現況	目標
市民アンケートにおいて「清掃活動などの地域の環境保全活動に参加している」と回答した市民の割合	59% (平成 22 年度)	80% (平成 33 年度)
市民アンケートにおいて「市や団体等が主催する環境保全のイベントや活動に参加している」と回答した市民の割合	24% (平成 22 年度)	60% (平成 33 年度)
事業者アンケートにおいて「環境マネジメントシステム (EMS) の導入」を行っている」と回答した事業所の割合	28% (平成 22 年度)	60% (平成 33 年度)

③各主体の主な取り組み

■市の取り組み

- ・ 「エコネットひがしひろしま」等と連携し、家庭や地域、事業者の取り組みを促進、支援するための仕組みづくりを検討します。
- ・ 市・市民・事業者が協働・連携した環境保全活動のシンボリックな活動となる、モデルプロジェクトを推進します。
- ・ 人材バンクのうち環境に関するもの等を活用し、人材の紹介等を行います。
- ・ 環境保全活動に対する支援の役割を市民、事業者等にも広く担ってもらうため、環境保全基金等の制定を検討します。
- ・ 環境マネジメントシステム (エコアクション 21、ISO14001 等) の導入を促進するための仕組みづくりを検討します。

■市民の取り組み

- ・ 市や環境保全団体等が主催する環境保全活動に参加します。
- ・ 地域での環境保全活動に理解・関心を深め、積極的に参加するとともに、より多くの人に参加を呼びかけます。
- ・ 地域における自主的な活動グループづくりに努めます。
- ・ 専門的な知識や技術をもっている市民は、環境に関する講習会等を開催し、地域のリーダーとして積極的に取り組みます。
- ・ 市民協働による住民自治協議会では、環境部会等で環境保全活動に取り組みます。

■事業者の取り組み

- ・ 環境マネジメントシステムの認証取得を目指します。
- ・ 地域住民の一員として市民、環境保全団体と連携、協力した活動に取り組みます。
- ・ 専門的な分野においては、人材派遣や技術提供などの支援を行います。
- ・ 同業種、異業種間での環境保全活動の取り組みなどを検討します。
- ・ 財産区有林や遊休農地などを市民等の自主的な環境保全活動や体験活動のフィールドとして提供します。

